vinetur

OIV、2026年の世界ワイン生産量を2億2,500万ヘクトリットルと推計

2026年の世界ワイン生産量は、4年連続で過去5年平均を7%下回る見通し。各地で減少するなか、スペインは増産となった。

2026年11月19日（木）



国際ブドウ・ワイン機構（OIV）が公表した新たな数値によると、2026年の収穫における世界のワイン生産量は2億2,500万ヘクトリットルと推計される。この水準であれば、生産量は4年連続で近年の平均を下回ることになる。

OIVは11月18日（水）に発表した声明と「World Wine Production Outlook 2026」で、今年の世界のワイン生産量の中心推計値を2億2,500万ヘクトリットルとし、推計幅を2億2,000万～2億3,000万ヘクトリットルとした。この推計はワインのみを対象とし、ジュースとマストは含まない。

OIVによると、この水準は世界の生産量が過去5年平均を約7%下回ることを意味する。複数年にわ

たる不作を経て供給調整が続いていることを示す一方、主要生産国の状況には大きな差が見られた。

主な例外の一つがスペインだった。OIVは、2026年のスペインのワイン生産量を3,260万ヘクトリットルと推計した。2025年比で13％増、過去5年平均を2％上回る。主要生産国の多くで減少が見込まれるなか、この回復は際立っており、世界有数の供給国から輸出可能なワインの量に影響する可能性がある。

OIVが公表した数値で引き続き最大の生産国であるイタリアは、4,100万ヘクトリットルと推計された。2025年比で8％減、同国の過去5年平均を10％下回る。米国は1,900万ヘクトリットルと予測され、2025年比で5％減、過去5年平均を18％下回る。オーストラリアは910万ヘクトリットルと推計され、2025年比で19％減、近年の平均を23％下回る。

OIVは、増減率の算出には、表に示された丸め後の生産量よりも詳細な基礎数値を用いたと説明した。そのため、増減率は丸め後の数値を単純に計算した結果と必ずしも正確に一致しない。

今回の推計は、世界のワイン産業が生産制約の続く時期にあることを示す証拠に加わる。近年の平均を4年連続で下回ることは、不作がもはや単発の出来事ではないことを示唆する。それでも、2026年の状況は一様ではない。スペインの回復とイタリア、米国、オーストラリアの減少との対比から、各国の生産結果が引き続き現地の栽培条件に大きく左右されていることが分かる。

こうした差は貿易にも影響する。欧州の主要輸出国、とりわけイタリアとスペインは、世界の供給において中心的な役割を担う。スペインの収穫増は輸出向け供給を増やす可能性がある一方、イタリアの収穫減は一部のカテゴリーで供給の柔軟性を損なう可能性がある。米国とオーストラリアの生産減も、両国産ワインの供給を減らす可能性がある。ただし、消費動向や既存在庫も市場を左右するため、OIVの数値だけから価格の動向を予測することはできない。

OIVは、2026年の数値を暫定推計として公表した。世界のワイン生産量の約95％を占める国々のデータに基づいている。初期段階の収穫推計である以上、各国のより完全な情報が得られるにつれて改定される可能性がある。

公表資料には、世界全体の前年比変化について食い違いもあった。11月18日の声明は2025年比で世界全体の生産量が1％近く減少するとした一方、見通し報告書では0.4％減としている。両資料とも中心推計値は2億2,500万ヘクトリットルで一致しているが、年間の減少率が異なるため、現時点のOIVの公表資料からは2025年比の正確な世界全体の変化は明らかでない。

この不一致があるものの、報告書の大筋は明確だ。世界のワイン生産量は近年の水準と比べて依然低く、2026年の収穫も平均水準への完全な回復には至らない。OIVの推計は、過去10年の大半と比べて生産量が抑えられた状態で市場が推移する一方、主要生産国間の需給バランスが変化していくことを示している。

生産者、輸出業者、買い手にとっては、世界全体の生産量と同じくらい、国別の内訳が重要になる可能性がある。スペインの回復は、前年の不振を経て輸出市場での存在感を高める可能性がある一方、イタリア、米国、オーストラリアの生産量減少は、商品構成、契約で確保できる供給量、出荷パターンに影響する可能性がある。供給が市場を左右する要素の一つにすぎず、需要も変化している状況だけに、こうした動きは業界で注視されるだろう。

OIVはこの推計に金額を付しておらず、指標は2026年の収穫について百万ヘクトリットル単位で測定されている。公表内容は価格、収益、貿易額ではなく、物理的な生産量に焦点を当てている。それでも、世界で当年産ワインがどれほど供給される見込みか、またその供給がどこから来るのかを示す、主要な初期指標の一つとなる。